

25年度陽南小学校「うつのみや学校マネジメントシステム」学校評価書

※ 網掛けのない部分が計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童を育成する。

【具体目標】

【目指す児童像】

- (1) 自ら学び、ねばり強く努力する児童———楽しく学ぶ子【かしこく】（自主・思考・判断・創造）
- (2) 思いやりをもち、助け合う児童———仲よく助け合う子【なかよく】（思いやり・責任・協調・協力）
- (3) 健康と安全に留意し、元気に活動する児童——元気に活動する子【たくましく】（明朗・気力・体力・実践力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育の目標は、「人間尊重の教育」を基盤として、21世紀の担い手として主体的に生きることができる、心身ともに健康でたくましい人間の育成を目指している。そのためには、自然や人を愛し自他を慈しむことのできる豊かな感性や強い体力・精神力を培ったり、自ら考え進んで学んでいこうとする意欲に満ちた態度を身に付けさせたりする等、知・徳・体の調和のとれた人間の育成を図ることが大切である。さらには、一人の人間として、自分の生き方についての考えをもち、よりよい生き方を求め、自分らしく生きていくとともに、社会の一員としての自覚と責任をもち、広い視野に立って、積極的に他と協調し連携を図りながら、よりよい社会を築いていくために努力していける能力や態度を身に付けさせていくことが必要である。これらのことを踏まえ、且つ現存する物的・人的環境を最大限に生かし、総力を結集して教育を推進し、本校の教育目標の具現化を図れるように努力していきたい。

【目指す学校像】

- (1) 子どもにとって、楽しい、通いたい学校（居がいのある学級と仲間、分かる喜び）
- (2) 保護者にとって安心して、通わせたい学校（開かれた学校、理解と協働体制）
- (3) 地域にとって信頼し協力したい学校（開かれた学校）
- (4) 職員にとって、助けあえる仲間がいる、働きたい学校（職員の和・協働体制）

3 学校経営の方針（中期的視点）

全教職員が信頼と和を基盤にした協働体制のもと、「不易と流行」をしっかりと把握し、教育目標の具現化のために英知を結集して活力ある教育活動を推進しながら、居がいのある学校づくりに努める。

- (1) コミュニケーション能力を育て豊かな心を醸成する教育活動を積極的に推進し、心豊かでたくましく生きる児童を育成する学校づくりに努める。
- (2) 深い児童理解のもと、小中一貫教育の推進による9年間を見通した確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、「分かる授業」を展開し、活力ある学校づくりに努める。
- (3) 自他の生命を尊重し、一人一人が生き生きと安心して学校生活を送ることができる、健康で安全な学校づくりに努める。
- (4) 学校課題研修や教師の自己研鑽に基づいた校内研修を充実させ、教職員個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、一人一人の能力や特性を生かしながら、児童とともに伸びる学校づくりに努める。
- (5) 学校・家庭・地域社会との連携を密にして、開かれた学校づくりの更なる推進に努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

（学校運営）

- ・豊かな心の育成に向けた、様々な取組みの充実（コミュニケーション能力の育成・望ましい人間関係構築・道徳の時間の充実・特色ある学校づくりの取り組み）

（児童生徒指導）

- ・基本的生活習慣を守り、場に応じて適切に判断したり自主的に行動したりできる児童の育成

（健康・体力）

- ・自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成
—自分の力に合った目標をもち、主体的に運動する児童・自分の体に関心をもち、自ら健康で安全な生活ができる児童を目指して—

（学習指導）

- ・学校研究課題「人とかわり、仲間とともに伸びる ～伝え合い、学び合い、認め合う児童の育成～」に向けての研究の推進

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価 (%)
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 「自分は、今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 【数値指標】 いじめの解消率100% 不登校解消率100%	① 児童一人一人が所属感と安定感をもった居がいのある学級作りに向けて、Q-U検査やアンケート・日常の交友関係の観察により、児童の実態を把握し、問題があるときはすぐに対策を講じる。学年間の連携も図る。 ② いじめの早期発見のため、学校をよりよくするアンケートを5月・10月・2月に実施し、実態を把握する。 ③ いじめ・不登校の早期発見・早期対応・解決に向けて、児童指導委員会学年会・ブロック会で情報交換し、教育相談を7月と11月に実施する。また、校内で改善しない家庭環境が背景の不登校については、関係機関（市教育センター・民生員・主任児童委員・児童相談所・市役所子ども課）と連携をとり、各担当からも働きかけを行うようにして、改善を図る。 ④ 日常の指導で問題が起きたときは、児童指導主任・安全主任・学年主任等と連携を図ってすぐ集合して対策を話し合い、対応策を学年に持ち帰って各クラスで指導をし、素早い対応に努める。また、職員会議の折に児童指導委員会を行い、各学年の児童の様子を伝えるようにしていく。		
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく一人一人丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 学校教育目標具現化に向けた学校経営のもと、一人一人を大切に、児童のよさを認め伸ばす学級経営に努める。 ② 児童の理解度をもとに、具体物の操作や教材教具の工夫を取り入れた「分かる授業」を展開し、基礎・基本の確実な定着を図る。 ③ 今年度も、教師自身の授業力向上に向けて、一人一授業を実践し、常に学び合う場を設定する。 ④ 授業参観後の懇談会で、学校で指導していること、家庭で指導することを伝え理解・協力を求めていく。		
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり、安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 「児童（生徒）は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 学校の決まり「陽南のよい子」に従って、全教職員の共通理解のもとに常時指導を継続し、「陽南のよい子10の約束」で自分の生活を振り返り、規範意識を高め、判断力・実践力を育てる。（振り返りは学級にに応じて、年3回実施） ② あいさつ、言葉遣い、返事などの目標を焦点化し、スモールステップで目標が定着するまで時間をかける。生活目標については、朝の会等で唱和させて意識化を図るようにする。（学校評価からの改善）		

	A4 教職員は分かる授業やきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 十分な教材研究のもと、本時の学習目標を明確にし児童の理解度に合わせた作業用紙やヒントカード・ヒントコーナー・教材教具を準備し、学習内容のまとめが分かりやすい板書に心がけ、授業力アップに努める。また、本年度の学習指導の課題である、自分の考えを表現できる児童育成のために、意見を取り上げ認め励まし、自信を持って意欲的に取組める支援の場を設定していく。 ② 少人数担当との連携を図り、学年習熟度別学習や学級内習熟度別学習・コース別学習・ＴＴ等、単元によって学習体制を替えて効果的な学習の進め方を取り入れていく。本年度の学習課題「伝え合い、学び合い、認め合う児童の育成」に向けて、学習形態の工夫や場の設定をし、自信をもって自分の考えを伝え合うことができるようにしていく。授業での個々のつぶやきなどにも目を向け、取り上げ認め励ますよう努める。 ③ 会話科の学習やコミュニケーションスキルタイムを計画的に実施し伝え合う力の育成を図る。また「聞き方・話し方のきまり」の掲示物により意識づけを行う。（学校評価からの改善）	【
学校運営の状況	A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている〔全〕 【数値指標】 「自分は、学校での生活や様々な活動が充実している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① ゆとりと充実感のある学校生活を目指し、行事の精選をする。また、学校、学年ごとに教科（社会科・生活科等）の関連した時期に、関連した場所に決定する ② 学校行事や児童会活動に、児童が主体的に活動する場面を多く取り入れ、児童の主体性や企画・運営力を育てる。 ③ 宇都宮市小中一貫教育の方針に従って、適切な時数を確保し、夏季休業中3日、土曜授業2日を含めて、知・徳・体の調和のとれた教育課程の編成・実施に努める。	
	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。〔全〕 【数値指標】 「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答85%以上	① 月1回配布の学校便り（地域にも回覧）・学年便り・保健便り・図書館便り・給食便りや学校ホームページ等を通して、保護者や地域住民に学校の具体的な取り組みや、児童の様子を知らせる。学校便りについては、様々な学校行事の責任者が内容を確認するなどして、今まで以上に学校の取り組みが分かるようにしていく。 ② 年度当初に「学校経営方針」を保護者に配布し、全保護者に周知する。またオープンスクール等を通して児童の様子を見てもらう。4月の全体会で、学校経営方針を説明し、7月の学級懇談で学級経営方針をしっかりと説明して、理解協力を求めていく。（学校評価からの改善） ③ 出前講座・音楽集会・児童集会等の教育活動を今まで以上に保護者に積極的に公開し、学校教育の現状を見ていただくことにより、本校の教育活動への理解を深めるようにする。（学校評価からの改善）	

	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。〔全〕 【数値指標】 「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上 A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすい」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 B1 常に自己研鑽に励み、工夫と研究を積み重ねる教職員を目指して、行動基準表の目標達成に取り組む。 【数値指標】 行動基準表の目標B達成率＝自己評価で90%以上	① P T Aによる水曜日下校時の立哨・みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊等に協力を依頼するとともに、教職員が交代で下校パトロールを実施し、児童の登下校の安全に努めていく。 (学校評価から改善) ② 地域協議会で学校運営について支援を受け、児童の教育・安全の充実に努める。 ③ 頑張る学校プロジェクト「人とのふれ合い活動」を積極的に推進し、地域教育的施設・資源(独居老人・幼稚園・保育園)との交流を通して、コミュニケーション能力の育成や相手を思いやる心・助け合う心を養う。「総合的な学習の時間」で「福祉」を中心とする4学年と、生活科で1・2年が交流のメインになるが、交流の様子などの情報発信に努め、学校便り・学年便り・学校ホームページ等の活用により、学校の取り組みを知らせていく。 ④ 1年「昔遊び」・3年「昔の人の暮らし」の単元では、地域人材及び保護者ボランティアにも協力を求め、その活用を図る。 ① 校内掲示の決まりに合わせて、室内は整然と整えられ、清潔感あふれ落ち着いた温かい雰囲気の中で、学習に集中できるように努める。 ② 縦割り班編成後、清掃場所に適切な数の班を割り当てる。(準備室等も)毎日の清掃時には教職員も一緒に清掃し、その場でも発達段階に応じた具体的指導を行う。また清掃マニュアルを見直したり、清掃専門機関の講師を招聘し清掃の方法を学ぶ場を設けたりすることにより、スキルを身に付けさせる。(学校評価からの改善) ・7月に全国ビルメンテナンス協会による清掃出前講座実施 ③ 毎月の施設・設備の安全点検により、修繕・補修を迅速に行い、安全安心な学習環境を整える。 ① 職員評価制度に基づいた自己行動規準表を作成し、自分の目標達成に向けて日々実践・努力をする中で、自己を高めていく。	【
教育活動の状況	A9 児童は進んであいさつをしている。〔全〕 【数値指標】 生 「児童(生徒)は、あいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 全職員が率先してあいさつし、学級輪番制によるあいさつ運動を通年実施し、児童会との協力を図りながら元気なあいさつの習慣化を図る。 ② あいさつについて児童の意識化図るため「あいさつをする意味」に言及し、学級指導や授業などで継続的に指導する。また、意欲向上のために、「あいさつ表彰」を実施する。さらに家庭での指導も学年だより等で呼びかけていく。	A

	A10 児童（生徒）は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 「児童（生徒）は正しい言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 B2 基本的な生活習慣の確立と徹底を図る。 【数値指標】 「児童は陽南のよい子の決まりを守って、安全に行動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	③ 生活目標で時と場に応じた「言葉づかい」について取り上げ、身に付くまで時間をかけて指導していく。また、「ことばの時間」や朝の「にっこりタイム」を活用して、相手の気持ちを考えた話し方を段階的に指導する。 （学校評価からの改善） ① 安全な生活を目指して、「陽南のよい子」をもとに、校内・外での過ごし方や遊び方のルールを指導する。 ② 安全に遊ぶ決まりについて学校と放課後の留守家庭との指導にズレがないよう、校庭の使い方や・遊び方のルールを見直し、安全に行動できるよう指導していく。 ③ 地域の方（安全見守りパトロール隊等）、子どもの家、キッズベースなどにも「陽南のよい子」を配付して、安全面や登下校について具体的にその場で指摘してもらうようにしていく。また、オープンスクールなどで児童の校外での様子の情報を集めるようにして、次の指導に生かしていく。	
健康・体力	A11 児童（生徒）は、進んで運動する習慣を身に付けている。（全） 【数値指標】 「児童は、休み時間や放課後などに、進んで運動している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 B3 体力づくりの工夫と運動量の多い体育授業の展開に努める。 【数値指標】 2～6年 「自分は昨年度の検定表の級より少しは上がった」 1年 「自分の目標を決め、毎日練習に取り組んだ」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「うつのみや元気っ子チャレンジ」の奨励し、「ミニマム」達成に向け、教科体育において効果的な補助運動を取り入れる。 ② 休み時間に児童会主催のスポーツ大会等と呼びかけ、楽しく運動する場を設ける。（11～12月） ① 体力テストの結果をもとに、毎時間ごとに補助運動（サーキット運動）を取り入れる。 ② 体力向上のため、地域学校園内で共通の検定表（水泳・なわとび）を作成し活用する。 ③ 元気っ子健康体力チェックの結果を踏まえて、教科体育で補強運動をしたり、日常行動・動作を工夫することによる体力づくりを継続したりする。また、児童の実態に応じた検定表を作成し、意欲的に取り組めるよう支援する。 ④ 各種検定の結果を積み重ねて記録できるものを作成し、目標を持って運動に取り組めるようにする。 （学校評価からの改善）	

	A12 児童（生徒）は栄養のバランスを考えて食事をしている。〔全〕 【数値指標】 「自分は、好き嫌いをなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 B4 安全に行動できる資質や能力を育成するために、関係機関と連携して様々な取り組みを実施する。 【数値指標】 「自分は、安全や保健の学習で、安全に行動すること健康に害のあること・やってはいけないことが分かって、正しいことをやろうと思う。」 ⇒児童の肯定的回答 100%	① 食育パンフレット」の配布やオープンスクール等での朝食摂取啓発ビデオ視聴また地域学校園で作成した「食育ファイル」を通して、食の大切さを啓発していく。学級活動において、栄養教諭による食育指導の時間を設けるなど、直接的な指導を行う。 （学校評価からの改善） ② 毎月配付の学年便りや各学級に食育コーナーを設け学校共通の記事を掲載することによって、食事のマナーや栄養素についての意識を高める。とともに地域学校園で「お弁当の日」を同日開催したり、家庭へのアンケートを実施し、家庭の食への意識を把握したりしながら、食への意識を高める。 （学校評価からの改善） ① 安全に行動できる資質や能力を育成するために、より具体的・実践的な取り組みをしていく。特に自転車の乗り方に関しては繰り返し指導する。 ○各学年で実施（警察と交通安全教） ・警察スクールサポーターと防犯教室（1年） ・防犯会社と非行防止教室（3年） ・自転車安全教室（4年） ・携帯電話についての講座（6年） ・防犯教室（アルソックによる）（5年） ・学校薬剤師と喫煙防止教育（5年） ・警察と薬物乱用防止教室（6年） ○全校で実施 ・警察スクールサポーターと不審者対応避難訓練 ・消防署と地震対応避難訓練 ・交通安全教室（市・生活安全課）6月	
学	A13 児童（生徒）は進んで学習に取り組んでいる。〔全〕 【数値指標】 「児童（生徒）は、進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学校生活の様々な場面・時間で、その都度話し方・敬語の使い方などを指導し、聞き手を意識した話し方ができるよう指導していく。 ② 授業の中に、グループ討論など話し合いの場を意図的に設定し、コミュニケーション能力の育成を図る。	
習	A14 児童（生徒）は落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指数】 「児童（生徒）は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ポイントを明確にした「学習のきまり」を作成し、落ち着いて学習する習慣を形成する。 ・チャイムを守って行動 ・学習用具の準備・片付け ・授業中の姿勢 ・ノートの使い方（学年統一）等 （学校評価からの改善） ② 話の聞き方を掲示し常時指導しながら、基本的学習習慣の定着を図る。	

	B5 家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】 「自分は家庭学習の習慣が身についた。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 低中高の実態に合わせて作成した「家庭学習のしおり」「家庭学習ヒント集」を活用して常時指導し、基本的な学習に対する姿勢を育てる。また、課題の内容を工夫し、個に応じた取り組みができるよう支援する。しおりの配布時や4月の授業参観全体会において説明の機会を作り、より浸透させていく。(学校評価からの改善)		
本校の特色・課題等	B6 頑張る学校プロジェクト 「本とのふれ合い」を積極的に推進し、読書の楽しさを味わわせ、豊かな感性と逞しく生きる力を培う。 【数値指標】 「自分は本を読むことや図鑑などの本を見ること、本を使った調べ学習などが好きだ。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 多くの本との出会いと読書の楽しさを味わわせるために、週3回の読書の時間を日課表に位置づけ、月2回ボランティアによる読み聞かせを実施していく。(学校評価から改善) ② 身近な本に親しむ環境作りのために、2階通路や北校舎階段踊り場に子どもたちの読んでいる実態やおすすめの本などの紹介をしていく。(学校評価から改善) ③ 全教科の調べ学習に対応できるよう、必要とされる時期に必要な本の整備に努める。 ④ 家読も呼びかけ、継続して本に親しむよう、働きかけていく。また校内の掲示板を使って、多読賞児童の表彰や本の紹介などを行い、読書意欲を高める工夫を行う。また、家庭学習に「図書利用」を取り入れるなど、図書に触れる機会を増やす。(学校評価から改善)		
	B7 頑張る学校プロジェクト 「人とのふれ合い」の推進により、相手を思いやる心や助け合う心を養う。 【数値指標】 「縦割り班活動では、他の学年の人とも協力しながら楽しく活動することができた。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 縦割り班を主体とした活動(春・秋の子ども集会・ふれあい給食・清掃班活動)を設定し、異学年交流の中でコミュニケーション能力を育成したり、思いやりや助け合う心を養ったりする。 ② 登校時のふれあい、地域の方とのふれあい、高齢者との交流、学校支援ボランティア感謝の会等様々な場面における交流活動の中で、児童一人一人のコミュニケーション能力の育成を図っていく。(学校評価からの改善)		

〔総合的な評価〕

6 学校関係者評価

7 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)